



インフルエンザ ワクチン接種を受けよう

指導：川崎市健康安全研究所 所長 岡部 信彦

企画：
日本医師会

No. 535

ワクチンの効果

インフルエンザワクチンは、完全にインフルエンザを抑え込むことはできませんが、65歳以上の高齢者の発病を半数近くに減らし、死亡を80%程度阻止し、6歳未満の小児の発病防止には50～60%程度有効であるという研究報告があります。

ワクチン接種は誰のため？

インフルエンザにかかるのは15歳未満が最も多く、次いで60歳以上です(図1)。入院(重症者は年間約2万人)は70歳以上が50%以上を占め、次いで0～9歳が20%程度です(図2)。高齢者はインフルエンザにかけると重症化しやすく、小児は重症化しにくくても多数がかかるので、入院者数は多くなります。したがって、本来予防するのにもっとも重要な年代は、高齢者と小児です。

10代後半から中年層は、あまりかからず重症になる割合も低いですが、学校や仕事を休めないで、ワクチン接種を希望する人が多くいます。多くの方が予防を心がけることによって流行しにくくなり、高齢者や小児などへの広がりを抑えて重症者数を減らすことにつながります。ワクチン接種は自分のためでもあり、人のためでもあります。

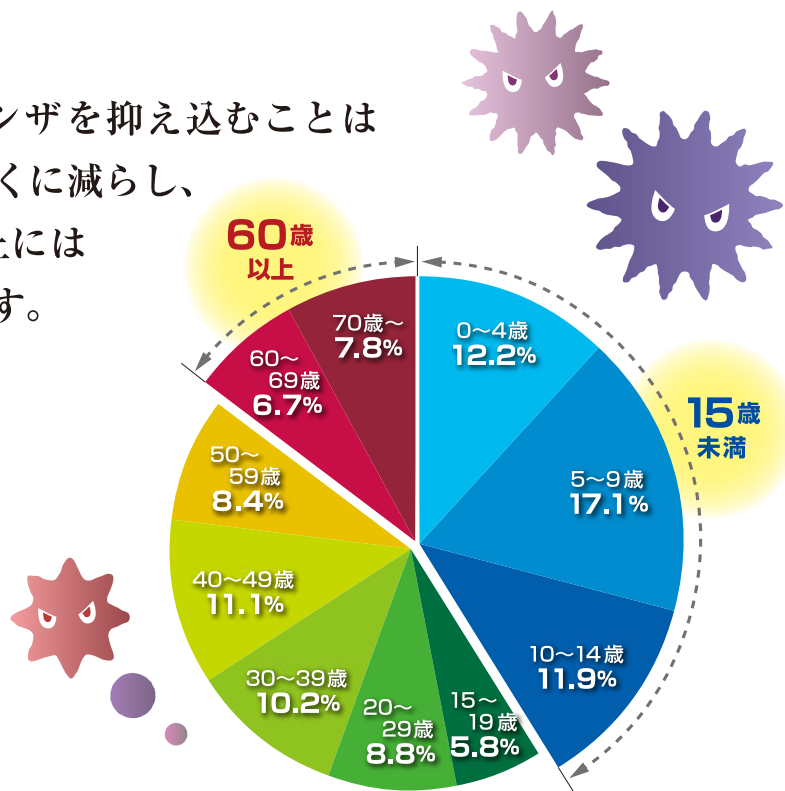


図1 2018/2019シーズンのインフルエンザ累積受診者(約1170.4万人)の年齢群別割合

(国立感染症研究所ホームページから)

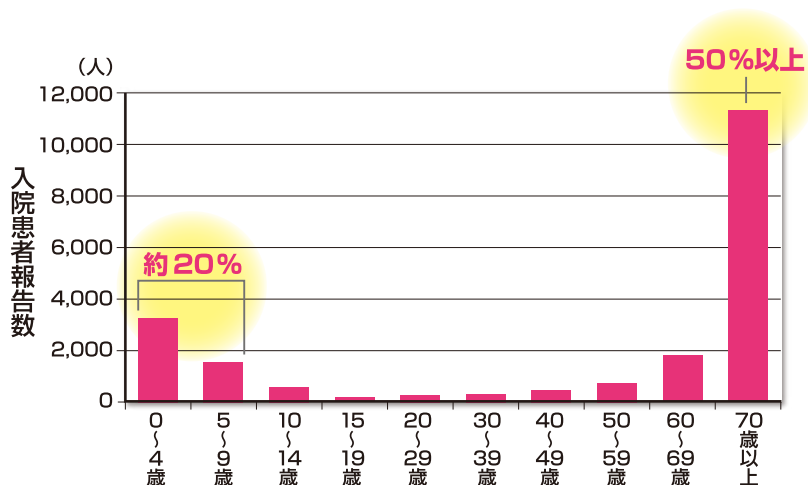


図2 2018/2019シーズンのインフルエンザの年齢群別入院患者報告数(20,389件)

(国立感染症研究所ホームページから)

この冬のインフルエンザワクチン接種

インフルエンザワクチンは新型コロナウイルスには効果がありませんが、肺炎を起こしやすい両方にかかるダブルパンチを防ぐ効果はあるでしょう。「マスク・手洗い・手指消毒」は、インフルエンザにも、新型コロナにも共通の予防法です。いろいろな予防法を組み合わせ、インフルエンザにも新型コロナにもかからないようにしましょう。

